

1月

↓アジュール舞子の草花・花木 1月

サザンカ 山茶花

花の無い時期に咲く貴重なツバキ科ツバキ属の耐寒性常緑高木です。花色には桃色、赤、白等があります。サザンカはツバキと違って、葉縁がギザギザしており、花卉がバラバラに散る。



* 山茶花は
芯が立ちやすく樹高が高くなる
花びらが少ない 5~10枚ほど
しわになるものが多い
* 寒椿は
背が大きくなりにくい(背丈が高くなる品種あり)
花びらが多い 14枚以上
しわしわにならない
* 寒椿と山茶花を別物と捉えることは難しい。

ソシンロウバイ 素心蠟梅

葉の展開に先立って、花径2センチくらいの花をたくさんつける。ロウ細工みたいな花卉と嫌みのない芳香が特徴。蠟梅(ロウバイ)は内側の花被片が濃い紫色になるのだが、素心蠟梅(ソシンロウバイ)は花被片全体が黄色くなる。



ボケ 木瓜

日本、中国を原産とするバラ科ボケ属の落葉低木。枝にはとげが生えており、短い枝に花がびっしりとつきます。果実が瓜に似ており、木になる瓜で「木瓜(もけ)」とよばれたものが「ぼけ」に転訛したとも言われる。



カンツバキ 寒椿

サザンカとツバキの交雑種と言われ、よく分枝するが背丈は低い。冬の間、紅、白、桃色の花を咲かせます。山茶花と同じで花卉はバラバラに散る。



↓アジュール舞子の草花・花木 1月



180119・G5

ローズマリー

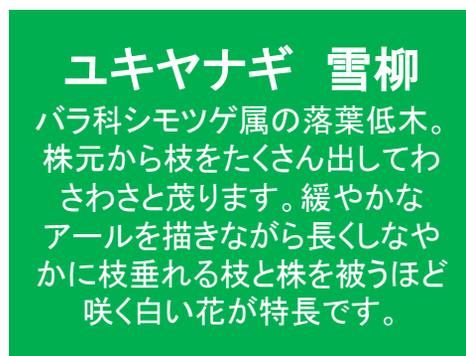
地中海沿岸に分布する常緑性の低木です。強い芳香があってハーブとして利用される。葉っぱは3cm程の短い棒状で濃緑色、表面には光沢があります。冬から秋にかけて葉の付け根に淡紫色の花を咲かせます。満開時は枝がたくさんの花で彩られます。



180121・G5



180106・Q3



ユキヤナギ 雪柳

バラ科シモツゲ属の落葉低木。株元から枝をたくさん出してわさわさと茂ります。緩やかなアールを描きながら長くしなやかに枝垂れる枝と株を被うほど咲く白い花が特長です。



180127・L5



180121・G5



180127・R3



180127・L5



180127・G5

ヒイラギモクセイ 柘木犀

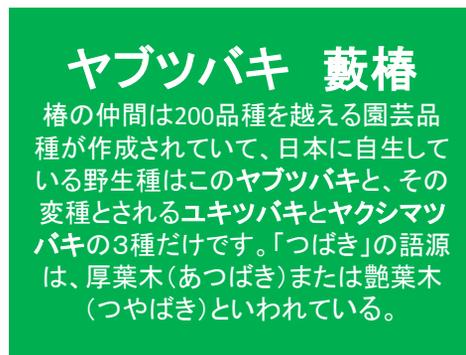
ギンモクセイとヒイラギの雑種であり、雄株だけが知られており、繁殖は取り木である。葉の大きさはキンモクセイに似ており、葉の周辺が棘になっている性質はヒイラギから受け継いでいる。10月に良い香りのする白い花を開かせる。



180127・G5



180106・H5



ヤブツバキ 藪椿

椿の仲間は200品種を越える園芸品種が作成されていて、日本に自生している野生種はこのヤブツバキと、その変種とされるユキツバキとヤクシマツバキの3種だけです。「つばき」の語源は、厚葉木(あつばき)または艶葉木(つやばき)といわれている。



180106・J5

↓アジュール舞子の草花・花木 1月

シャリンバイ車輪梅

バラ科シャリンバイ属の常緑低木。小枝を車輪状に出して、5月に梅に似た白い花を咲かせることからシャリンバイの名前があります。花後には直径1cmほどの球形の実を付け、10月頃に熟して黒紫色になります。



トベラ 扉

4~5月になると枝先に芳香のある白い小さな花をたくさん咲かせて丸い果実ができます。果実は10月頃に熟して3つに裂け、ねばねばとして糸を引いた赤いタネが中から出てきます。雌雄異株(しゅういしゅ)で果実は雌株にできます。



マルバシャリンバイ

丸葉車輪梅

葉が丸いシャリンバイです。花は白~薄紅色で、晩春に梅に似た花を咲かせます。晩夏~秋に黄緑色の球形の果実を成らせその後熟して黒くなります。



マサキ 柵

葉は楕円形で縁にゆるやかなぎざぎざが入り、革のような光沢があり厚めです。夏に緑がかった白色の小花を咲かせ、冬には赤い実を付けます。熟した実は3~4つに裂けて、中から赤黄色の種子が現れます。



ピラカンサ

ピラカンサはトキワサンザシ、タチバナモドキ、カザンデマリ等のバラ科トキワサンザシ属の種類の総称。常緑性の低木で、春に白い小花を咲かせ、秋から冬にかけて赤や柿色の果実をたわわに実らせる。

クロガネモチ

5月~6月にごく淡い紫色がかった小さな花を咲かせます。花自体は小さく目立ちませんが花後に1cm足らずの果実をたくさん付け、秋になると真っ赤に熟します。たくさんの真っ赤な実を付けた秋の姿は非常に美しく冬までその姿を楽しむことができます



↓アジュール舞子の草花・花木 1月



180105・H5

クコ 枸杞

ナス科の落葉低木で、
食用や薬用に利用される。
開花期は夏から初秋で、
直径1cmほどの小さな薄紫色
の花が咲く。
果実は1cm～1.5cmほどの楕円形で、
赤く熟す。



180127・H4



フイリマサキ(斑入り柘)

180111・E7



180120・H5

ヒイラギナンテン 柘南天

葉っぱがヒイラギ、実の付き方が
ナンテンに似ているためにこの名
前があります。冬になると葉は赤く
色付き、春には花茎を横から斜め
下に伸ばし小さな黄色花をたくさん
咲かせます。花後には果実がブド
ウのような房状になります。

モッコク 木斛

ツバキ科の常緑性広葉樹。

7月頃に淡いクリーム色の花をうっ
むきかげんに咲かせます。花後
には球形の果実ができ、秋に赤く色
付きます。モチノキ、モクセイととも
に「三大庭木」にも数え上げられ、
地味ですが風格があり、庭の主役
として扱われてきました。

アセビ 馬酔木

馬が食すと酔ったように苦しむこ
とに由来します。茎葉に有毒物質
のアセボトキシンが含まれており
人間が誤って口にすると腹痛、嘔
吐などの症状を起こすことがあり
ます。春にスズランのような甘い
香りのする白い花を楽しむことが
できます。



180120・C5



180106・K5



180127・J5

フヨウ 芙蓉

幹はよく枝分かれして上だけでは
なく横にも枝がよくはりこんもりと茂
る。夏から秋にかけて最大直径
15cmほどの花を咲かせます。花色
は品種によって白～ピンクまで色
幅(濃淡)があります。花は朝開い
て夕方にはしぼむ一日花です。



180106・J5

カメリア エリナ・カスケード

ツバキ科ツバキ属の常緑中低木です。
樺の仲間で、中国の野生種を改良し
た園芸品種です。枝が細いので湾曲
し、先端が下垂する枝垂れ性の樺で、
春、白色で外弁花が薄桃色の小花を
咲かせます。別名 姫山茶花とも言わ
れています



180113・H4

↓アジュール舞子の草花・花木 1月



ユリオプスデージー

南アフリカ原産の常緑低木です。小さいうちは草花のような姿ですが、年を経ると茎は太くなって表面がごつごつした樹木らしい姿になります。葉は羽状に深く切れ込んで表面に柔らかい毛が密生し、灰白色に見えます。冬～春の花の少ない時期に一重の黄色い花を咲かせます。



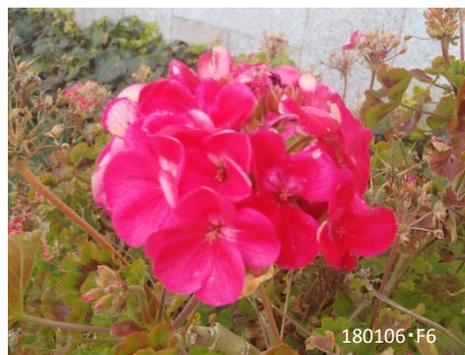
ムクゲ 木槿

アオイ科フヨウ属の落葉樹。すらっとした直立した樹形。花は一重咲き、半八重咲き、八重咲きのものがある。色は白、濃紅、濃紫、青紫、ピンクなどがあります。花は短命で朝咲いたらその日の夕方にはしぼんでしまう一日花です。



ゼラニウム

花は一重、八重などがあり、色は赤、紅、淡紅、ピンク、サーモンピンク、白などがあります。葉は丸っこく、馬のひづめ型の黒っぽい斑紋が付きまます。茎は多肉質で太く、葉のつけ根から花茎を伸ばして先端に数十輪の花をボール状にまとめて咲かせます。



ハマボウ

アオイ科の落葉低木。花期は7-8月で、直径7cm程度の、中心が赤褐色の黄色い花を咲かせる。花の形態は同属のハイビスカス、ムクゲ、フヨウ等に似る。花は1日ではぼむが、大きな株は夏季に毎日次々と開花する

オキザリス・桃の輝き

オキザリスはカタバミの仲間で800～850種があり、世界に広く分布しています。花は夜間や雨天には閉じていて、日中の日ざしを受けると盃状やロート状に大きく開きます。満開のとき、株を覆うように咲く様子は非常に見ごたえがあり、人目を引きまます。



↓アジュール舞子の草花・花木 1月

オステオスペルマム

おもに南アフリカに分布する毎年花をさかせるキク科の草花。以前はディモルフォセカと混同されて売られていましたが、多年草で花茎に葉がつくなどの違いがあります。強い日差しを好み、乾燥に強いという性質は共通しています。花は日差しに反応して開き、日陰や雨の日は蕾のままになります



ガーデンシクラメン

サクラソウ科シクラメン属
日本の農家が寒さに強い系統を選抜、交配し開発した品種です。通常のシクラメンは霜に当たると、一発でダメですが、ガーデンシクラメンは弱るものの枯れるわけではありません。お庭に露地植えるのに向いています。



フシラズ

冬知らず(キンセンカ)

キンセンカの耐寒性の高いものの品種が「冬知らず」という名前が流通しています。少々霜に当たっても、雪をかぶっても、花を咲かせます。



プリムラ・ジュリアン

サクラソウ科サクラソウ属の園芸植物。冬から春の花が少ない時期に、赤、白、ピンク、紫、黄色などのポップな色彩の花を咲かせる草花です。

マーガレット

3-7月に花をつける。

白色の一重咲きが普通であるが、黄色やピンクのもの、八重咲き、丁字咲きのものもある。本来は宿根草であるが、日本では温暖地でないと越冬できない。

ガザニア

主な開花期は初夏-秋で長く伸ばした花茎の先端に1輪の花をさかせます。色は黄色、ピンク、オレンジ、赤、白などがあり、蛇の目模様や2色咲き(バイカラー)、ストライプなど非常にカラフルです。花は晴れた日中に開き、日の射さない曇りや雨、夜間は閉じます。



↓アジュール舞子の草花・花木 1月

イオノプシディウム

アブラナ科の植物で、小さい株を覆うように、とても小さい花が咲きます。花は十字形で、環境により白～紫色に変化します。それほど強くはありませんが香りがあります。葉もとても小さく、丸いかたちをしています。



イソギク 磯菊

多年草で地下茎を出して株立ちになる。葉は楕円形から倒楕円形で、大きく丸い鋸歯が入る。葉は厚く、表は緑色だが、裏側は白い毛が密生する。花期は10 - 11月頃、多数の頭花を散房状につける。花は筒状花のみで舌状花はない。



ハボタン 葉牡丹

アブラナ科アブラナ属の多年草。名前の由来は、葉を牡丹の花に見立てたもの。耐寒性に優れ、冬の公園を彩るほか、門松の添え物にも利用される。花は黄色で4-5月に開花するが、観賞の対象とされず、薹が立つ前に処分されてしまうことが多い。



スイセン 水仙

ヒガンバナ科スイセン属の多年草。春を告げる草花として古くから親しまれています。スイセンの仲間はおよそ30種の野生種があり、全草に毒性があり、葉っぱがニラ、球根がタマネギと間違えられて食中毒を起こすケースがよく見られます。



キンギョソウ

キンギョソウは地中海沿岸(南ヨーロッパ・北アフリカ)に分布する植物です。花茎をまっすぐ上に向かって伸ばし、穂状にたくさんの花を咲かせます。花の姿がひれを広げて泳いでいる金魚に見立ててキンギョソウの名前があります。



シバザクラ 芝桜

北米西部原産の毎年咲く多年草です。茎は立ち上がり横に這うように広がって4～5月に花を咲かせます。環境が良ければ一株で径50cmほどに広がり、満開時の地表を埋め尽くすばかりの花は見応えがあります。花は色は白、ピンク、藤色などがある。



↓アジュール舞子の草花・花木 1月

セイヨウタンポポ 西洋蒲公英

キク科タンポポ属の多年草。
ヨーロッパ原産の帰化植物。
環境省指定要注意外来生物。
日本の在来種とは外側の総苞
の反る点が異なる。



180120・H5



180121・H5



180127・R3

ホトケノザ 仏の座

葉のつき方が「仏の蓮座」に似ている
ことからこの名がついた。春の七草の
ホトケノザはキク科のコオニタビラコ
のことで本種とは異なる。
幼苗期にはオオイヌノフグリに
似ているが、ホトケノザの方が
細長く伸び、やや赤みを帯びて
いることが多い。



180120・J6

ナルトサワギク

東アフリカ原産の多年草。高さ20
～50cm。繁殖力が強く通年開花。
花の直径は1円玉ぐらいで、花弁
にはギザギザがない。1976年に
徳島県鳴門市瀬戸町で見つかり、
外来生物法で**特定外来生物**に指
定され、栽培・移動などが禁止され
ています。(ブラックバスと同じ特定外来生物)



180127・O4

ブタナ 豚菜 (タンポポモドキ)

キク科エゾコウゾリナ属の
多年草。ヨーロッパ原産で、
日本では外来種(帰化植物)
して各地に分布。
環境省指定要注意外来生物



180106・Q2

ナズナ 薺

別名 ペンペン草 三味線草
アブラナ科ナズナ属の越年草。田
畑や荒地、道端など至るところ
に生える。ムギ栽培の伝来と共に
日本に渡来した史前帰化植物と
考えられている。春の七草の一つ
で、若苗を食用にする。かつては
冬季の貴重な野菜であった。



180121・H5



180128・O4



抜取・駆除しました

180128・O4